

会津藩主松平家墓所

昭和62年5月12日国史跡指定、面積187,000m²、
会津若松市所有



亀・亀石



亀石（亀・きび）は、功績「碑石」を乗せた北の守神「玄武」。その上部に名前を書いた「表石」（おもていし）、さらに上部に遺体を埋めた「鎮石」（しずめいし）があります。石はすべて河東町から運ばれ、運ばれなかつた亀石の「おおかみ石」があります。

9代容保

正頼

本妙院殿

2代正経

保科正之（ほしなまさゆき）公の正室は内藤政長の娘、菊姫。継室は上加茂神社藤木の娘、於万（おまん）。於万の子。次男の正頼は、明暦三年（一六五七）正月十九日の江戸大火で、三田藩邸の消火を、二十一日か二十二日頃に風邪をこじらせ、それが原因で二月一日死去。正之は、自分より早く亡くなったので、深く悲しみ院内に仏式で二月二十三日墓所を造り、以後松平家墓所となります。正頼と二代目正経（まさつな）だけ仏式で他の藩主は神式の墓は西の御庭にあります。この墓所には、二代から九代容保までの墓があります。

「拝領妻の本妙院殿」三代正容（まさかた、寛文九・一六六九年、若松城三之丸で生）の正室「竹姫」は十六歳で死去。その後、奥女二人の内「お祐」が継室となり、男子の「正甫」と三女を設けますが女子は死去。奥女のもう一人「お門」は「正邦」ともう一人の男子（早世）二人を設けますが、お門は十七年間お祐に幽閉され、最初の拝領妻として、御使番の神尾八之丞へ嫁がされます。さらに「お吉」は「正房」を生んだ後、二番目の拝領妻として家臣の堀半右衛門に嫁がされます。さらに「おれつ」は、二男一女を生んだ後、三番目の拝領妻として山崎佐助へ嫁がされます。また「お市」は十四歳で正容の侍妾となり、後の四代藩主容貞（かたさだ）となる「長菊」を生んだ後、四番目の拝領妻として笹原与五右衛門忠一へと嫁がされます。正邦や継室の正甫が死去したことから、享保十一年（一七二六）には四歳の「長菊」が世継ぎとなります。そのため笹原与五右衛門へ離縁を申し渡しますが、拒否したことから三百石は没収、幽閉されて余生を過ごします。お市（本妙院殿）は二十三歳で死去し、墓は松平家墓所にあり、五右衛門忠一は六十四歳で死去し、墓は材木町の秀長寺本堂裏にあります。

車の場合、東山温泉ホテル東鳳前を通ると八代墓の脇に着き、駐車場がその上にあります。